



第30号 2009年3月30日発行

社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会
ボランティアセンター

〒950-0909

新潟市中央区八千代1丁目3番1号

新潟市総合福祉会館内

TEL:025-243-4370 FAX:025-248-7180

E-mail: volunteer-center@syakyo-niigatacity.or.jp

HP: http://www.syakyo-niigatacity.or.jp/

ブログ: http://borasen.blog113.fc2.com/

ふくし

福祉教育NOW



3月16日(月)新潟市総合福祉会館

『ふくし教育&ボランティアセミナー』が開催されました。

年度末の開催だったため(ごめんなさい!)学校の先生の参加は残念ながら少なかったのですが、約120名の参加がありました。中野佐世子さんから講演いただきました。

「障がいのある人への勝手な思いこみは心のバリアを生み、正しく知らないが故の誤解が、偏見や差別につながるのです。正しい理解が必要です。」

「福祉体験も大切ですが、日常生活の中にも福祉教育がひそんでいます。たとえば挨拶1つでも変化があります。近所の人に挨拶をすることで、どんな人たちが地域に住んでいるのかわかります。災害が起これば、助けてくれるのは遠くの人ではなく近くの人。聞こえない人とのコミュニケーションで考えると、朝近所で会ったときに、頭を下げ、『おはようございます』と口も一緒に言えば、聞こえない人は、相手が手話ができなくとも朝の挨拶をしていることがわかりますよね。このようなコミュニケーションのつながりから、災害時には家のドアをあけて、合図を送ることもできるのです。こういった1つ1つの生活の中でのコミュニケーションや姿勢がとても大切になってきます。私たち大人が、日常できることを子どもたちに伝えていかなければ、何か特別なことをしなくても、日常の小さなふるまいや心遣いなどから、子どもたちへ大切なことが伝わっていくと思います。」

「戦争や内乱が起きれば、まず虐げられるのは障がいのある方。そして高齢者、子どもたちでしょう。争いのない、平和な日本を守っていくのも、私たちの大事な役割ではないでしょうか。」

なかの さよこ

中野 佐世子さん

Profile

NHK手話ニュースキャスター

東京生まれ。高校生のときに、手話に出会う。

大学では障がい児保育を専攻。現在、複数の大学で聴覚障がい者とのコミュニケーション法の指導等を、東京都渋谷区の「こどもの城」では小・中学生のための福祉講座を担当。



手話の歌や時折笑いを交えながらの楽しい講演でした。

ごっちゃになっていませんか?

★バリアフリー

障壁となるものを取り除く。段差をなくするためにスロープをつける、2階以上の建物にエレベーターを設置など。ボタンを押さないと開かない自動ドアはどうでしょう?

福祉教育で、心のバリア(偏見・差別)フリーな社会を目指しましょう!

★ユニバーサルデザイン

最初からバリアをつくらない。全ての人にとって使いやすいデザインなど。

例: シャンプー側面のギザギザ、ビール缶のフタ部点字、牛乳パック上部の切り込み、紙幣の区別加工、地下鉄の案内、カレンダーの日曜・祝日の朱色、多目的トイレ、トイレのマークと色、地デジTVのリモコン などなど点字ブロックはどうでしょうか?

実践発表 (ふくし教育&ボランティアセミナー)

新潟西高等学校 ボランティア同好会

「活動から私たちが学んだこと」



新潟西高等学校ボランティア同好会のおふたりと顧問の栗川先生（全盲の先生）から、実践発表をしていただきました。

栗川先生をはじめ視覚障がいのある方のための支援（点字ラベル作成、音訳、対面朗読、歩行ガイドなど）や海岸、通学路などの清掃・校庭の花壇整備といった環境美化活動、福祉施設や保育園等への訪問活動、街頭での募金活動、文化祭での点字講習会や難民問題パネル展示など、さまざまな活動をしています。

「実践活動が、自分たちの心の成長につながりました。」という発表に、参加者の拍手が響きました。



★セミナー参加者からの声（アンケート結果から）

- ボランティアとは色々な人の心をゆたかにすることだと思いました。
- 身近な所で自分にできることが少しずつ始めることも大切と実感しました。勇気をもらいました。
- 視覚障がいの先生から学べて、自然にボランティアできたのではと思いました。良い出会いでしたね。
- 関心を持って積極的に取り組んでくれている高校生が数多くおり、豊かな心も育っていると感じ、あたたかい気持ちでかかせていただきました。

「活動は、同好会の生徒だけでなく、学校全体の生徒・教師も一緒に取り組んだものもあります。」と顧問の栗川治先生 ※4ページの写真も参照してください。



『ふれあいから得たこと』 坂爪 雄樹

私はボランティア同好会での活動を通して多くの人と関わってきました。その中でも、私は点字活動が大変印象的でした。普段点字に触れる機会があまりないため点字を打つ道具などの使用に苦労しました。自分たちだけが点字を勉強するのではなく、文化祭で生徒や一般の人にも教えるということになり、点字を知らない人へわかりやすく伝えるための努力もしました。

今回のセミナーでは、点字の学習など数多くの活動を紹介しました。活動紹介の時には緊張してしまい、早口になってしまったところも多々ありましたが、自分たちの活動を多くの人に聞いてもらえるよい機会となりました。

また、ボランティアの活動から多くのことを学びました。それらの経験をこれからも生かしていけるように頑張りたいと思います。そして、今後も積極的にボランティアの活動に参加していきたいと思います。



『出来ることからやってみよう』 宗村 真斗

ボランティア活動の中で一番印象に残っているのは、募金活動です。街頭に立って、お願いしますと声を出したときに、大勢の人から募金に協力していただき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。ただ残念なのは、中には素通りして行く人もかなりいたことです。募金の大切さを理解してもらうことの難しさも実感しました。

今回セミナーの中で、中野佐世子さんの講演は印象に残りました。私は、中野さんの講演を聞いて、HIVなどに感染してしまった人や、体の不自由な人に対する差別意識を無くし、バリアフリーの考え方を広げていくことが、いかに難しいことが改めて考えさせられました。

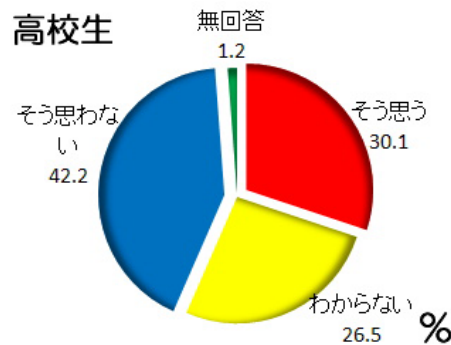
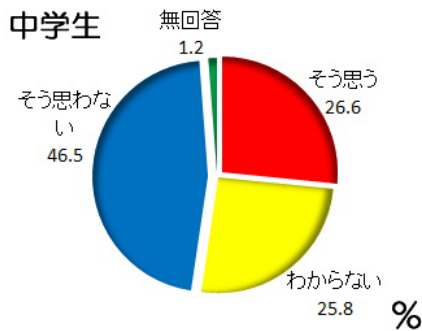
自分も考え方を少し変えてみたり、積極的にボランティアに参加するようにすることなど、これからも自分が出来ることを続けていこうと考えています。

おふたりは、3月に卒業され、4月より大学へ進学されます。坂爪さん・宗村さん、実践発表と今回の寄稿、本当にありがとうございました！

えっ「お金が一番たいせつ」!?

金融広報中央委員会（平成18年発表）
「子どものくらしとお金に関する調査」より

質問「お金が一番たいせつだと思いますか？」



※調査結果の詳細は、
こちらで見られます。
<http://www.shiruporuto.jp/finance/chosa/kodomo2005/index.html>

前に、目にされた方もいらっしゃると思いますが、結構ショッキングなデータですよ。

「お金が一番たいせつだと思う」と「わからない」を足した割合が、半分以上を超えるのです。

(小学生は、「そう思う」の割合がもう少し少ない)

これからの社会を支えていく子どもたちに、考えてもらいましょう。

★そう思う

「だって、先生！お金があれば、ごちそうやケーキが食べられるもん。」

「ほしかったゲームが買えて、みんなで遊べる。」

「いろんなところへみんなで旅行できて、楽しいよ。」

「山のおばあちゃんへ、プレゼントを贈れるよ。きっと喜んでくれると思います。」

★わからない

「一番たいせつかどうかはわからないけど・・・お金があれば、家族が病気になっても、お薬が買えるし、お医者さんが治してくれるもん。」

「いっぱいお金があったら、世界中の貧しい子どもたちに、たくさん食べ物を送れるかもしれないよ。」

「そうですね。確かにお金は大切です。でも、みなさんの、誰かを助けたい、誰かを喜ばせたい、みんなできあわせになりたいという、その気持ち。こっちの方が、お金より大切だと先生は思いますよ。」

●こんなところから、

『ボランティアってどういうこと？』

へと、つなげていけそうですね。

4月、全区にボランティアセンターがオープン！



★総合学習・福祉体験の相談など、下記へご連絡ください。

北区

北区東栄町 1-1-35 豊栄さわやか老人福祉センター内
TEL 025-386-2778 FAX 025-388-2914

東区

東区松島 2-4-7 東区中地域保健福祉センター内
TEL 025-272-7721 FAX 025-272-1756

中央区

中央区八千代 1-3-1 新潟市総合福祉会館 3階
TEL 025-243-5099 FAX 025-248-6633

江南区

江南区横越中央 1-1-2 老人福祉センター横雲荘内
TEL 025-385-4321 FAX 025-385-3773

秋葉区

秋葉区七日町 2234-1 グリーンセンター内
TEL 0250-25-3740 FAX 0250-25-3744

南区

南区白根 1132-1 老人福祉センター白寿荘内
TEL 025-373-3223 FAX 025-373-6125

西区

西区寺尾西 1-1-5 (旧・清水フードセンター寺尾店)
TEL 025-211-1630 FAX 025-211-1631
※事務局が移転しました！

西蒲区

西蒲区巻甲 4363 巻ふれあい福祉センター内
TEL 0256-73-3565 FAX 0256-73-4914

こんな話を知っていますか？

目が見えない人がたくさん住んでいる町がありました。その町では、目が見える人よりも目が見えない人の数が多いのです。

目が見えない町長さんは、次のような政策を発表しました。「地球温暖化対策と省エネのため、電灯を廃止します。街灯はもちろん、家庭内やビル内のすべての電灯を！また、テレビ放送の受信も中止し、ラジオのみとします。大気汚染を招くため、個人での自動車利用も禁止します。公共交通機関を利用しましょう。」

目が見える人たちが反論します。「そんなことをしたら、私たちは夜、真っ暗で何もできないじゃないか！ テレビも見たいし、ドライブもしたい！」

町長さんは答えます。「おっしゃることはたしかにわかります。しかし、少数の市民の意見をすべて聞いているときりがありませんので。反論は却下します。」

では、現実ではどうですか？
逆さにして考えてみてください。

☆ある日のボランティアセンター

先生：手話のことを学びたいので、耳の聞こえない講師の方をお願いしたいんです。

担当：わかりました。聴覚障がいのある方に依頼しますね。(後日) 講師の方が決まりました。〇〇さんという方です。連絡先のFAX番号は、123-4567です。

先生：内容についていろいろと相談したいので、講師の方と電話で連絡したいのですが。

担当：えっ。先生、あの・・・



車いすバスケットは、とても楽しいスポーツです。
(平成20年度夏休みボランティア体験学習より)

平成21年度 新潟市社会福祉協議会

「社会福祉協力校」募集します！

新潟市社会福祉協議会では、市内の小・中学校、高等学校等を対象として、社会福祉の理念と制度についての理解と関心を高め、思いやりの心・社会連帯の精神を養うとともに、児童・生徒を通じて地域社会の発展を図るため、「社会福祉協力校」を指定しています。

21年度の新規指定は5校で、年間10万円を助成する予定です。(指定校数・助成額は変更する場合があります)

助成金は、各校独自の工夫と計画に基づき、「広報活動」「調査・研究・学習活動」「体験学習を目的とした実践活動」「ボランティア体験」等、さまざまな活動に利用できます。

現在、21年度の募集要項を作成中。要項・申請書等は、新年度に入りましたら各校へ送付いたします。詳細は、ボランティアセンターまでお問い合わせください。

※2ページに掲載の、新潟西高等学校も社会福祉協力校です。平成20年度は、24校に助成しました。



写真協力：新潟西高等学校

新潟市社会福祉協議会のキャラクターの「きらりん」です。
(いちご大福が大好物)
福祉教育を応援します。
これから、よろしくお祈りします！



あなたのとなりに 社会福祉協議会

「住み慣れたまちで安心して暮らし続けたい。」みんなの願いを実現するため活動している社会福祉法人です。